

視察調査・研修会等報告書

令和5年11月27日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬 武蔵



研修・視察年月日	令和 5年 11月 15日(水)～11月17日(金)
研修会場・視察先	① 愛知県一宮市 尾張一宮駅前ビル (iビル) ② 岐阜県大垣市 大垣市役所 大垣公園 ③ 愛知県半田市 (株)バイオクラシックス半田
研修名・視察目的	① 尾張一宮駅前ビル(iビル)について ② 大垣公園における地域活性化拠点形成の基盤整備検討調査について ③ 事業系生ごみリサイクル施設について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①一宮市 活力創造部 指定管理課 課長補佐 田中様 他3名 ②大垣市役所 都市計画部 公園みどり課 課長 辻様 他3名 ③半田市 株式会社バイオクラシックス半田 本部長 猪飼 様
参加議員(同行者)	関良平、小川亘、篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵
調査概要	①【尾張一宮駅前ビルについて】 建て替え前の旧駅ビルは施設の老朽化・耐震性の問題等があった。JR 側に建て替えの要望を行ったが「自社では建て替えない」との回答であった経緯がある。市民の声を拾い上げ、アンケートを実施したところ90%もの市民が建て替えを希望。一宮市の玄関口にふさわしい景観にしてほしいとの声が多数であったことを受け、再度要望したところ「土地を貸すので市の方で建て替えが出来ないか」との回答があった。長い年月を要したが、平成 20 年から設計に着手。平成 24 年 9 月に工事竣工。2 か月後には i ビルが開館した。 工事費の総額は約 64 億5千万円。 (まちづくり交付金事業として国からの補助金が約 10 億円。平成 17 年の市町村合併による合併特例費が約 43 億円となっている。) 建物の中には、図書館・子育て支援センター・貸会議室など市民交流の場となって、視察当日も平日ながら殆どの貸会議室は使用されていた。

視察調査・研修会等報告書

② 【大垣公園における地域活性化拠点形成の

基盤整備検討調査について】

・大垣駅の南に聳え立つ大垣城を中心とした「大垣公園」。そのほかにも併設されている「大垣城ホール」などを含めると3.1畧となっている。城下町大垣のシンボルとなっており平成 21 年には外観復元が行われた。視察当日も晴天であり、青い空、真っ白な外壁がとても綺麗に演出されていた。また、大垣公園ではプレーパークと呼ばれる「遊びのインストラクター」が常駐しており、子どもたちの安全面は勿論、休日には「火起こし教室」など子どもたちには貴重な経験が出来るのも魅力的である。指定管理として NPO 法人に委託している。お昼前の時間でも子育て世代で賑わっていた。大垣公園は映画【聲の形】の舞台にもなっていて聖地巡礼としても観光スポットとなっている。

課題としては

- ・大垣城ホールは築 70 年が経過しているが、建て替えとなると大垣公園全体への影響が非常に大きいこと。
- ・大垣城自体が文化遺産となっているので手を付けるのが難しい。
- ・回遊性を高める事が目的であるが、市内を流れる川や城の堀が工事の弊害となっていることもある。

③ 【事業系生ごみリサイクル施設について】

・株式会社ビオクラシックス半田による官民一体の事業系生ごみリサイクル事業に取り組んでいる。自治体の焼却施設の燃料費や薬品使用量の削減、炉の延命化、最終処分量の削減効果。また脱焼却による脱炭素効果がある、まさに時代に合った取り組みである。

半田市バイオマス産業都市構想として、市としての悩み事であった家畜の糞尿臭や食品廃棄物、家庭生ごみをメタンガスによる発電や、固形分は堆肥化などによるリサイクルのスキームが出来上がっている。ブランド化された「金赤トマト」を頂いたが、糖度も高くとても美味しかった。

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	① 駅から直結であることから、悪天候の時でも濡れることなく図書館や会議室を利用できることがとても魅力的であった。図書館も 5 階には未就学児が多少騒いでも良いエリア。6 階以降は試験勉強などを真剣に行えるように、従来の図書館の姿があった。空間を分けることでお互いが気持ちよく利用できていることが伺えた。小山市でも玄関口である小山駅の活用を推し進めていく必要があると強く感じた。 ② 小山市においても城山公園の利活用や、中央公民館の改築など沢山の課題が類似している大垣市での取り組みはとても参考になった。中心市街地の活性化は両市ともに重要な課題である。回遊性を高めるという本市でも掲げる「ウォークアブルシティ」についても更に調査研究していきたいと思う。 ③ 先日、本市でも「ゼロカーボンシティ」の宣言を行ったとてもタイムリーな課題であった。半田市では、官民一体での取り組みとして【地域循環システム・脱炭素農業】がとても参考になったのと、今後の農業の在り方なども勉強になった。お土産として頂いた、【脱炭素型スマート農業】金赤トマトはとても甘く美味しかった。
---	---

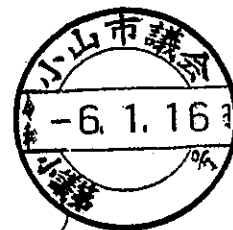
視察調査・研修会等報告書

令和6年1月15日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬武蔵



研修・視察年月日	令和 6年 1月 9日(火)~1月11日(木)
研修会場・視察先	① 鹿児島県霧島市 霧島市こども館「すかいぴあ」 ② 鹿児島県鹿児島市 天文館図書館 ③ 福岡県福岡市 福岡市役所
研修名・視察目的	① 霧島市こども館 開館までの道のりと課題 ② 天文館図書館の取り組み ③ LINE を活用した市民への広報について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①霧島市役所 保健福祉部 子育て支援課 種子田様 他1名 ②鹿児島市 天文館図書館 館長 松田様 他2名 ③福岡市 市長室広報戦略室広報課 係長 松田様 他2名
参加議員(同行者)	関良平、小川亘、福田洋一、篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵
調査概要	① 霧島市こども館について 平成30年5月にこども館設置検討委員会が立ち上げられ、令和3年7月16日に開館された。 既存の建物を活用し、屋内・屋外に遊具を設置した経緯がある。 入館料は市内外問わず無料。3階の展望ルームでは桜島を一望できるとても魅力的な施設となっている。(視察当日は休館日だったため、賑わいは見られなかったが、担当者の種子田様は土日に来てもらうととても多くの子どもたちで賑わっていると仰っていました。) また、近隣にはテクノパークを誘致しており、林業もあるため、DIYなどのワークショップも開催されているとの事。 課題としては、中心市街地から遠いため、自家用車での利用しか出来ない。公共交通機関が整うことを期待しているとの事。 ② 天文館図書館の取り組み 天文館図書館は2022年4月にオープンした複合商業ビル「センテラス天文館」内にあり、会話や飲み物も楽しめるオープンスペースの多い図書館となっている。陳列の仕方も特徴的で「そだつ・くらす・はたらく・うみだす」をテーマに分けている。テーマ分けをすることで来客

視察調査・研修会等報告書

	年齢をうまくコントロール出来ていると感じた。予約席もあり、混雑を避けるように工夫されていた。また、中央にはステージ・ギャラリーがあり、市民に貸し出しをしている。 【図書館】というと、静かにしながら黙々と読書をする。という固定観念が変わるととても明るい、市民が交流を楽しめる憩いの場所となっていた。 ③ LINE を活用した市民への広報について 2022年時点で92.5%が利用しているLINE。福岡市ではこのコンテンツを使用して、市の広報活動を徹底している。特筆する点は、個別へのアプローチである。よくあるサービスでは、一方通行の市からの情報提供。特に必要としていない情報まで毎日のように流れてくるため、配信停止してしまう事が課題であった。その点、登録後に自身の興味のある項目を選択し、その関連情報が個人のLINEに送られてくる。(私も福岡市で登録してみたところ、災害情報や健康情報が翌日には送られてきた。) もう一つ先進的な取り組みは、道路・公園の損傷報告をLINEから個人が担当部署に送られることだった。LINEには位置情報も機能されているので、ピンポイントで確認できる。市の職員の負担も減しているとの事だった。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	① まず初めに、担当して頂いた職員が小山市の「キッズランド」をとっても調べており、参考にされていた点があった。大変苦勞された点は、共通の「コロナ対策」。密を避けての人数制限、マスクの着用など徹底していた。昨今の課題である少子化は、他市でも同じであり、安心して子育てが出来て、子ども達が生まれた街でこれからも生活したいと思える街づくりをしていきたいと強く感じた。共通の課題として認識し、今後お互いに情報共有できるようにしていきます。 ② 画像解析AIを導入し、人的負担を軽減できていた天文館図書館。電子タグなどを付けるのではなく、背表紙を解析し、貸し出す際に認識するときは、5冊以上の本を瞬時に解析していた。また、出入り口には、一切ゲートはなく、防犯対策に不安があったが、当初不安視していた犯罪等は殆ど起きていないという。開放的な空間においてそのようなネガティブな事象は起きずらいという事も再確認できた。本市においても、駅直結の商業ビルを利活用するには、とても良い先

視察調査・研修会等報告書

	進事例だと感じた。 ③ 現在、小山市でもLINEを使っている市広報活動はしているが、パーソナライズされたものではなく、一斉送信のことが多い。より、市民の方が求めている情報を適切に送信できることが住民へのサービス向上につながると感じた。また ChatGPT を使用せずに、「チャットボットシナリオデータ」を利用し、適切な回答データを提供していることに感動した。このような取り組みは職員の負担減に大いに貢献しており、また福岡市では、このデータを無償で提供しているとの事。このデータを集めるのにとても労力が掛かっているであろうに、そのデータを無償で提供する試みは、地方自治体における助け合いの精神だと強く感銘を受けた。是非、小山市でも取り組めるように伝えていきたい。
--	--

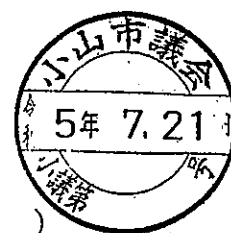
視察調査・研修会等報告書

令和5年7月21日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬武蔵)



研修・視察年月日	令和 5年 7月 12日(水)～7月14日(金)
研修会場・視察先	① 佐賀県佐賀市 佐賀市役所 わいわいコンテナ ② 福岡県福津市 福津市役所 ③ 福岡県福岡市 福岡市役所
研修名・視察目的	① 空き地活用・コンテナ広場活用 ② 新原古墳群と近隣自治体との協議会 ③ 地域包括ケア情報プラットフォーム
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①佐賀市経済部 中心市街地振興室 室長 藤田様 他3名 ②福津市 教育委員会 文化財課 世界遺産係長 池ノ上様 他3名 ③福岡市 福祉局 総務企画部 政策推進課長 奥田様 他2名
参加議員(同行者)	関良平、小川亘、福田洋一、篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵
調査概要	① 「わいわいコンテナプロジェクト」 中心市街地等に公園等が少ない点、空き地・駐車場が増加している。目指す街の姿としては、様々な機能が集積し、多くの人々が活動する、歩いて暮らせるコンパクトな中心市街地。経費やハードルを下げるために建物を建てるのではなく、移動可能なコンテナを活用。コンテナ1では近隣の商店街へ集客できるなどの成果があったが、コンテナが分棟ではないため、用途に応じた利用に支障が出ていた。その反省点を踏まえてコンテナ2を実施。「チャレンジショップ」として新規出店を考えている若者に1日～最長1か月のレンタルコンテナで模擬的に出店。その後、近隣に空き家をイノベーションし出店するケースがあり、雇用創生にも寄与している。また、古いアーケード街であった場所が明るい街に様変わりしている。 ② 新原古墳群と近隣自治体との協議会 世界遺産登録までには沢山の苦労があった。(まずは登録団体リストに入らなければならない。一度、そのリストから漏れている。) ・沖ノ島というところが、女人禁制や自然崇拜など古代の風習が残って

視察調査・研修会等報告書

	いる。 ・大きな観光資源ではあるが、入島禁止などにより、実際に触れることができないと、2回目の観光客は誘致できない。そこが大きな課題だとも感じた。 ③【地域包括ケア情報プラットフォーム】 ・ビッグデータを活用した地域包括ケアシステム 団塊の世代が75歳以上となる2025年。住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。高齢化とは言っても、同市でも進展状況には大きな地域差がある。 保険者である市町村が地域の自主性や特性に応じて作り上げることが大切である。 福岡市では全国平均の10年遅れで高齢化が進んでいる(要因としては大学も多く学生の移住が多いのも起因している) 行政や各主体で断片的に管理されていた医療・介護・健診データを住民情報に紐づけて管理(毎月最新データを蓄積。約230種46億件のデータ保有) いろいろな情報が集まることで、今まで見えてこなかった原因などが分かるようになることも期待している。(データ管理では九州大学と共同研究) オープンデータを活用し民間企業へのビジネス創出が可能となっている。(例えば介護が必要になりバリアフリーに改築する際の業者などをcareINFOで検索できる) ・福岡市在宅連携支援ネットワーク「ケアノート」 高齢者を中心とした取り巻く環境を官民一体となりサポートできる。(福岡市・家族・ケアマネ・医療機関・訪問看護師・ヘルパーが情報を共有し最適なケアを実現) 特に役所に取りに行かなければならなかった書類や情報を共有できるのは現場の負担軽減となっている。 平成29年では30名だった登録が令和5年には49000名となっている。また登録事業者も当初の4倍の120事業者となっている。
--	--

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

- ① 小山市でも空き地・空き家の問題は例に漏れることなく早急に対応しなくてはならない課題である。そこで佐賀市の「わいわいコンテナ」では低コストで運営でき、また地域ごとに求められているニーズに対応しやすい取り組みだと思う。また、市では最近活発になっているマルシェ、おやまいちと共同で今後出店希望の方への架け橋となれるのではないか。と感じた。
- ② 福津市では世界遺産を起爆剤に町おこしを狙っているものの、なかなか思うようにいっていない。という現実を共有できた。確かに遺産というものは一度見に行くと数年足を運ばないことも多いと思う。そこに季節の花や、イベントを同時に開催することで雰囲気を変えていくことが市民へのサービス向上、しいては地域の魅力発信となるのだと感じた。小山市でも「小山検定」があるが福津市でも「世界遺産沖ノ島検定」がある。取り組みとして、オンライン受講ができるという点は小山市でも導入を検討しても良いのだと思った。
- ③ 福岡市のビッグデータ活用による業務改善、サービス改善には正直驚いた。この取り組みは国が主体となってやるべき内容であるが、待ってられない！という熱い思いから市独自でシステムを構築し、トライ&エラーを繰り返しながら運用している。平成29年には30名の登録者が令和5年には49000名が活用している所に、「痒いところに手が届いているサービス」であることが容易に想像できた。また、集積したデータを今後は多方面で活用することに前向きであり、九州大学と共同で研究を進めていることにも将来性をとても感じた。介護者のなり手不足には業務量が多すぎるといった課題もあるが、このプラットフォームにはその問題点を改善する可能性がとても詰まっている。早急に小山市でも導入し、今後の超高齢者社会において活用を進めるべきだと強く感じた。